

平成二十九年度 春季 鎌倉俳句&ハイク

季節 「春」

期間 平成二十九年二月一日～平成二十九年四月末
投句数 一、九一九句

特選三句

天

避暑ホテル客室の窓すべて海

埼玉県狭山市 古谷 多賀子

地

かばかりの堰を越されず落椿

東京都武蔵野市 池田 章子

人

竹林の春の光に包まるる

静岡県静岡市葵区 中島 朋美

入選句

一般の部

親王の土牢暗し笹子鳴く

東京都武蔵野市

池田 宏治

山門を抜け来る風やぼたんの芽

神奈川県相模原市南区

榎本 弘光

大仏の横顔やさし花の雨

愛知県岡崎市

大井 篤子

寺庭の牡丹三つ四つ咲くがよし

神奈川県横浜市旭区

加瀬 伸子

そのかみの縁切寺やしだれ梅

神奈川県鎌倉市

小林 貞夫

春の空蕾の先にあるつぼみ

東京都三鷹市

柴本 純佳

立子の句ふと口ずさむ雛の日

神奈川県座間市

鈴木 幸子

虚子の忌を昨日に今日も雨の古都

千葉県市川市

高木 ヤエ子

法塔の竜外にも出よ風光る

神奈川県横浜市戸塚区

高橋 央尚

古りてなほ鎌倉山の桜かな

神奈川県鎌倉市

友成 節子

何か鳥来ては落してゆく椿

神奈川県鎌倉市

長尾 俊郎

子も孫も出て一艘の若布干す

東京都杉並区

野村 親信

花の雨御成通りの淋しくて

神奈川県三浦市

秦 孝浩

啓蟄の水音まるくなりにつけり

神奈川県茅ヶ崎市

原田 博之

本尊は阿弥陀如来や桐の花

神奈川県三浦市

兵藤 逸子

ろう梅の黄色まぶしい海の風

東京都多摩市

福井 明子

きさらぎや源平池の水ゆたか

埼玉県さいたま市見沼区

保科 綾子

露座仏となりて幾年花の雨

愛知県岡崎市

見山 久子

大仏や花はらはらと御手に降り

神奈川県逗子市

森澤 謙二郎

うぐひすや谷戸を渡れば極楽寺

神奈川県横浜市青葉区

山下 省三

(順不同)

入選句

子どもの部

ふと見るともう散りかけた梅の花

神奈川県鎌倉市

新井 菜歩

かまくらの山をのぼれば春の風

東京都品川区

釜 和沙

天ぷらにするとおいしいふきのとう

神奈川県鎌倉市

河合 孝哉

ウグイスのなきごえひびく山の中

東京都品川区

園田 龍ノ介

大ぶつの近くでうぐいすなっている

東京都荒川区

田岡 陸

春風がふいたその時春になる

東京都多摩市

福井 綾音

ふきのとうたくさん生えておいしそう

神奈川県鎌倉市

松永 隆佑

見つからず鶯の声どこからか

東京都世田谷区

宮下 雅大

山道の景色に見とれ春の海

神奈川県鎌倉市

村田 恵美瑠

きれいだなあざやかな海夏がくる

東京都品川区

安富 琉音

(順不同)